

令和5年度

千早赤阪村立学校

評価報告書

学校名(千早赤阪村立千早小吹台小学校)

校長名(大門賀子)

1. 教育目標

本校教育目標

～だれもが輝きひびき合う学校をめざして～

《キャッチフレーズ》やさしさと笑顔いっぱいの学校

《教育目標》「豊かなこころ」「確かな学力」「健康な身体」の育成

めざす学校像

- 明るい学校
- 楽しい学校
- 開かれた学校

めざす子ども像

- 人の気持ちがわかる子
- すすんで学ぶ子
- 元気でたくましい子

めざす教師像

- 人権意識を大切にする教師
- 授業を工夫改善し研修に努める教師
- チームを意識し緊密に連携協力する教師

2. 経営方針

めざす学校 どんなときでも「あいさつ」「笑顔」を大切に!

めざす子ども像 「小さな成功体験」を重ねることで自信を持ち、自己肯定感、自尊感情が高まり、自分のことが好きになる。失敗を恐れず挑戦する心が養われる。

自分のことを大切に思う気持ちが、他の人のことも同じように大切に思うことにつながる。

自己有用感を持てるような学級での活動、居場所作りも同様に自尊感情の育ちにつながる。
自己肯定感や自尊感情が高くなるのが、すべての活動の土台の安定につながる。

⇒『生きる力』の育成

そのために・・・『ともに学び ともに育つ』という視点や『個別最適化された学び』が必要！

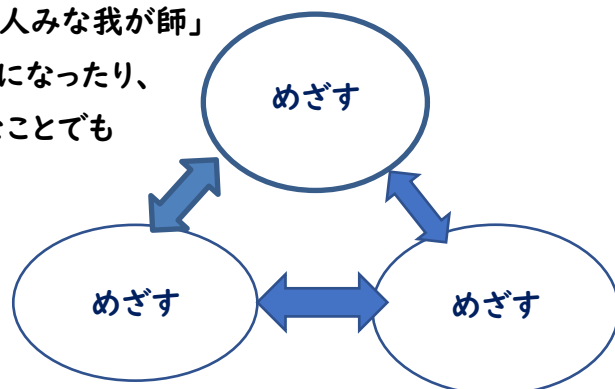
めざす教師像

人権意識の向上に努める。(研修への積極的参加)

教師は、同じ仲間である教職員、児童、保護者、そして地域の人々とともに学び、育っていくという「謙虚な姿勢」が必要。「我以外皆我師」「人みな我が師」

一人でできることは小さなことでしかないので不安になったり、迷ったりするのは当たり前のこと。困ったことはどんなことでも仲間と共有し、一緒に取り組めばいい。

カバーし合える仲間がいるから、失敗を恐れず、挑戦していける。貪欲に！



《重点目標》

◆『ともに学び ともに育つ』支援教育の視点に基づいた学校作り

個性を認め尊重し合い、協力し、だれもが安心して学べる「授業」「学校環境」を作る

・児童それぞれの良さを認め、生かし、寄り添い、助け合う姿勢を大切にしたクラス作り

→ つねに情報共有を意識し、9つのクラスがつながった学校作り

・教職員それぞれの良さを発揮し、補い合い、組織的に取り組む職員室作り

→ 『チーム千早小吹台』

◆教育の個別最適化の推進、次世代型学習への挑戦

一人1台端末を活用するための研究、実践を推進し、従来のノート学習の見直しとともに、次世代型学習のあり方を追求する

・デジタル教科書、AIドリル、グーグルクラスルーム等を活用しながら、個別最適化された学びと協働学習のあり方、可能性について研究していく。 『タブレットの日常化』

・自学自習を進めるためのノート作り

◆特色ある学校作りの推進

地域と連携を取りながら、学校教育の課題に取り組むとともに、郷土である大阪府唯一の村「千早赤阪村」に誇りと愛着を持ち、さらに広い世界ともつながろうとする子どもたちを育む。

・郷土学習を進める。(歴史・自然・名所など)

・国際理解学習を進める。

・発信していくための言語活用能力(日本語・英語)を高める。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	(1) 学習習慣の定着と言語能力の育成、 SE 事業 研究テーマ「論理的に考え、根拠をもって表現する力の育成」 外国語科・外国語活動 研究テーマ「低・中学年…音声に十分に親しませる授業づくり」 「高学年…自分の想いを伝える言語活動の設定」
D	具体的な取り組み内容	①「学習用具のきまり」プリントによる学習姿勢を育む取り組み ②「学級づくり・授業づくりスタンダード」を意識した「学級づくり」「授業づくり」 ③自分の考えを書く活動の充実 ④基礎学力を定着させるための朝学習の実施 ・国語タイム(新聞を活用した読解など)、算数タイム(計算力などの定着) ・読書タイム(本に親しむ) ⑤効果的な習熟度別授業を3年生以上で実施 ⑥読書活動の充実としてホームリーディング活動(11/1~30)の実施 ・学校図書館司書との連携、委員会活動(おススメの本紹介など) ⑦ICT 機器の活用実践交流
C	自己評価／成果と課題	①あまり守ることができていない学級もあることが分かった。中身の再検討も必要。 ②チェックリスト形式にかたちを変更し、より意識しやすいものとした。1⇒2⇒3学期と、少しずつ自己評価が上がっている職員も複数名おり、意識するためのものとして効果的であったのではないかと思う。 ③「書く」に関する系統性を意識した授業作り、「書く」ことを積極的に取り入れた授業作りをめざした。各クラスの国語の学習の様子を発信することで、教員同士学び合う機会になった。 ④今年度は国語タイムにおいて、教室で児童と一緒に読解教材や小論文などに取り組むことにした。これによって、児童への指導が具体的にできるようになり、効果的であった。 ⑤習熟度別に分けることによって、児童一人ひとりに対してきめ細やかな手立てを打つことができたり、さらなる発展問題を用意してどんどん問題にチャレンジさせたりすることができた。単元によっては、一斉で行う方が効果的な場合はTTで授業を行うこともあった。職員が二人いることの利点を大いに生かした授業を実施することができた。 ⑥ホームリーディング活動では、①ジャンルの違う本に触れることができた②同じ本を読み感想を共有することができた③好きな作家の本について友達と話す機会になった④家庭で本を読む機会を作ることができたなど、子どもたちが「本」「友達」とつながる機会となった。一方で、取り組みが学年によっては読書活動の充実にあまりつながらなかった場合もあった。 ⑦新しく導入されたロイロノートについて、その活用方法を深めたり広げたりするために、活用実践共有会を行った。全教員が必ずロイロノートを活用した実践を報告することにし、まずは全員が「使ってみる」ことを今年度は行った。
A	次年度に向けて	①部で検討ののちに新年度に提案する予定。 ②来年度も、同じような方法で実施したい。 ③「書く」活動を取り入れた授業を継続して行っていく。 ④来年度は算数タイムにおいても、職員朝会を減らし、児童と一緒に取り組む予定。 ⑤習熟度別のための人材がいるのであれば、来年度も同じような方法で実施したい。 ⑥児童の実施状況について児童アンケートを行い、来年度の実施方法について検討する予定。 ⑦来年度以降は、ロイロノート以外のICTツールも活用しながら、効果的な活用方法について検討していく。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		II 豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	(4) 体力・運動能力, (5) 食育 ○体育…体育活動を通して、運動の楽しさや喜びに触れさせ、運動好きな子どもを育成する。 ○食育…給食を通して豊かな心情を育て、正しい食生活のあり方を身に着けさせる。 ○保健…自分の心や体をよく知り、大切に守り育てる子どもの育成に努める。
D	具体的な取り組み内容	○体育 ① 体力向上…様々な体力の向上のため、スポーツテストを3～6学年合同で実施 体力づくりのため、かけあし運動・マラソン大会、なわとび教室を実施 ② 水泳指導…泳力に注目して取り組む。昨年度から指導内容を変え、3年生でふし浮き、 4年生と高学年で13mクロールを行う。 また、着衣水泳を昨年度から引き続き実施 ③ 運動会…日頃の取り組みの発表の場、またつくり上げていく楽しさや達成感を味わわせる ために実施 ④ アクションプラン…スポーツテストから考察し、「体力づくりアクションプラン」を作成する。 ○食育 ⑤ 感染予防に配慮し、手洗い消毒の徹底、配膳・喫食の工夫を行う。 ⑥ 実際の給食を題材に、地場産物や栄養、魚の上手な食べ方等について指導を行う。今年度は「食事マナー」を食育重点項目とし、食器の並べ方やお箸の持ち方について指導を行う。 ⑦ 教科と関連し、「やさい」「朝ごはん」等について食育を行う。 ⑧ 食事マナー向上のため、児童保健委員会で豆つかみ大会の取り組みをさせる ○保健 ⑨ 暑さ指数の掲示物を見て、児童自ら熱中症を予防する行動を取れるよう指導する ⑩ 5年生や教職員対象の、より実践的な救命救急講習を行う ⑪ 児童が能動的に参加し、行動変容につながる学年に応じた保健指導を行う ⑫ 運動器検診の事後措置や肥満傾向児童の栄養指導など、個別又は集団での指導を行う。

C	自己評価／成果と課題	<p>○体育</p> <p>① スポーツテスト…柔軟性や瞬発力を測る項目では、全国や大阪府を上回る記録になっていた。しかし力強さを測る項目に課題がみられた。</p> <p>かけあし運動・マラソン大会 …かけあしタイムだけでなく、体育の時間にも同じ距離を何度か走り、タイムを記録していくようにした。そのため、自分で目標を立て走る意欲につながっていた。</p> <p>なわとび教室…高学年の回数の確保するため、検定者を4・5・6年生にして実施。また、雨の日も実施したことで回数の確保ができた。</p> <p>② 昨年度から引き続き評価をせず、個々の能力を調査する年度とした。指導内容を変更したことにより、元の評価基準にある指導内容に近づけることができた。</p> <p>③ 細かな反省はあったものの、大きなトラブルもなく実施できた。</p> <p>④ 握力や持久力、に課題が見られた。サーキットなどの運動を発信して活用してもらうよう、引き続き行っていく。例年の握力の課題は機械によるものかもしれないので、来年度は握力計を中学校に借りて実施する予定。</p> <p>○食育</p> <p>⑤ 前向き喫食は解除されたが、引き続き、感染予防に配慮し、手洗い消毒の徹底を行った。</p> <p>⑥ 全学年給食指導を実施し、地場産物や栄養、魚の上手な食べ方等について指導した。全学年で食器の並べ方、お碗の持ち方について指導し、改善が見られた。</p> <p>⑦ 全学年で教科と関連した食育を実施した。社会科や道徳科とも関連できた。</p> <p>⑧ お箸の持ち方を取り上げ、上手な持ち方動画の作成や豆つかみ大会の運営を通じて、楽しみながら食事マナーを向上することができた。</p> <p>○保健</p> <p>⑨ 期間中、1日3回計測し運動場出入口に掲示。水筒忘れの児童へは、ペットボトルの水の貸し出しを引き続き行っている。</p> <p>⑩ 5年生へは富田林消防署作成のDVDを用いて、教職員へは健康教育部主催で各役割を明確にして実施した。</p> <p>⑪ 身体測定時、学年ごとに年6回保健指導を実施。ICTを活用した保健指導も行った。</p> <p>⑫ 保護者の協力も仰ぎ実施した。運動器検診では、児童の実態に即した事後措置ができ、半数以上が改善した。個別栄養指導では、栄養教諭ともに毎月実施し、肥満度が改善した。</p>
A	次年度に向けて	<p>○体育</p> <p>・スポーツテスト…固定施設、遊具を使うドリル形式の運動や、サーキット運動を取り入れる。スポーツテストでの記録測定までに経験を積ませる。</p> <p>・運動会…開催時期が変更されるので、会場設営やタイムスケジュールを検討しながら実施する。</p> <p>・マラソン大会…走行距離は今年度と同様で実施。また、当日までの個々の進捗も記録しておく。</p> <p>・水泳…今年度の実態をもとに来年度の評価基準を考えていきたい。</p> <p>○食育…実態を踏まえた食育重点項目の設定および、個別相談指導の充実に取り組む。</p> <p>○保健</p> <p>保健指導…実施回数は削減するが、睡眠や朝食など生活習慣について改善できるよう、より充実した内容を実施する。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-1 安心安全な学校づくりの推進)
P	重点目標	<p>(1)いじめ・虐待防止, (3)防災教育</p> <p>生活指導目標「全校一貫した指導により、一人ひとりに基本的な生活習慣を身に着けさせる」 「自分で考え、自主的・意欲的に行動できる力をつける」 「お互いの人格と人権を尊重しながら望ましい集団を育成する」</p> <p>重点目標「全校一貫した指導により一人ひとりに基本的な生活習慣を身につけさせ、一人ひとりを尊重し、ともに高めあえる集団作りを目指す」</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>(1)-1 「こころとからだど、くらしのアンケート」を月1回行い、些細な変化を見逃さないようにする。</p> <p>-2 有事の際には、「いじめ・不登校対策委員会」「ケース会議」を開き、チームで対応、協議する。</p> <p>-3 「気になる児童」については、経過観察するとともに、職員会議で全体に情報共有する。</p> <p>-4 委員会活動、なかよし班活動(週1回のなかよし班掃除、月1回のなかよし班遊びなど)、クラブ活動では、高学年を中心に自主的に活動する。</p> <p>(3)-1 「不審者侵入時の対応について」の見直しを行い、火災や地震・不審者対応の避難訓練を行う。</p> <p>-2 被災時を想定した引き渡し訓練では、教室ではなく運動場からの引き渡しを行う。</p> <p>-3 学期に1回“クラスDE防災”週間を行い、災害時の行動や避難経路の確認を行う。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>(1)-1 ・3 職員会議前に、「こころとからだどくらしのアンケート」や普段の子どもたちの様子を低・中・高学年部会で話し合うことをきちんと行うよう、徹底を呼び掛けた。部会・会議中に、職員間できちんと共有することで、学校全体の子どもたちを、職員全員で見守ろうと意識することができた。</p> <p>(1)-2 本年度も、「ケース会議」を行い、問題改善に向けて職員で話し合い、対策を立てて実行した。外部機関との連携も進め、校内だけでなく大きな枠組みの中長期的なスパンで児童に向き合い、手立てを考えた。そのため、良い方向に向かっている。</p> <p>(1)-4 委員会活動やなかよし班活動、クラブ活動では、高学年を中心に異年齢集団での活動を行うことができた。委員会では、子どもたちの意見を取り入れた活動を多く行っており、子ども中心な自主的な活動ができていた。6年生の行動は、下級生の行動のモデルとなっていた。なかよし班そうじ、なかよし班遊び、縦割り遠足、なかよしお別れ会など、異学年で様々な活動を行う中で、各学年でも活動に臨む意義を伝え、心を育てるよう意識してきた。このような継続的な活動を通して、縦割班活動は代々受け継いでいくことができる。</p> <p>(3)-1 昨年度の課題を踏まえて、不審者に対して複数で対応できるように、「不審者侵入時の対応について」を作り変えた。それをもとに行った不審者対応避難訓練では、迅速な対応ができご指導に来ていただいていた警察の方にも高く評価していただいた。他の避難訓練も計画的に行うことができた。</p> <p>(3)-2 昨年度までの防災士のアドバイスをもとに、今年度は運動場で引き渡し訓練を行うことを計画した。雨天のため、教室からの引き渡しになったが、運動場からの引き渡しについての案を考えることができたので、有事の際にはどちらでも対応できる体制ができた。</p> <p>(3)-3 学期毎に“クラスで防災”週間を行うことで、いつどこで災害が起きても、対応していくことの大切さを子どもたち自身が意識するきっかけとなった。</p>
A	次年度に向けて	<p>(1)引き続き、未然防止に取り組み、有事の際には迅速なチームでの対応を行える体制を作る。</p> <p>(3)被災時を想定した引き渡し訓練では、運動場からの引き渡しを実施。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり(3-2 学校および教職員の資質向上)
P	重点目標	<p>(1) 学校運営・評価, (2) 教職員研修の充実, (3) 働き方改革, (4) 地域学校協働活動, (5) 不祥事・ハラスメント防止</p> <p>(1) だれもが輝きひびき合う学校をめざして、教職員それぞれの良さを発揮し、補い合いあえる雰囲気づくりをすすめる。「チーム千早小吹台」として組織的に学校運営に取り組んでいく。</p> <p>(2) 教職員一人一人が自分の良さに自信をもち、様々なことにチャレンジすることを推奨し、全教職員のスキルアップを目指す。</p> <p>(3) 教師は、同じ仲間であるという意識を高め、一緒に取り組めば安心という雰囲気づくりを大切にする。仲間がいるから、失敗を恐れず、安心して挑戦していけるようにし、職員のメンタルヘルスを整える。無駄を省き、効率的な働き方を積極的に取り入れる。</p> <p>(4) 学校支援地域本部の組織を核にし、地域と連携を取りながら、学校教育の課題に取り組む。また、SE 事業・国際理解教育を推進し、自分の思いを分かりやすく発信していくための言語活用能力(日本語・英語)を高める。</p> <p>(5) 不祥事・ハラスメント防止に努め、教育公務員としての自覚を促す。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>(1) 学校評価について、教務・研修部と生徒指導部、健康安全部の3部会において、PDCAにより、目標を立て、具体的に取り組む。また、行事等でその都度全員で反省を書き、円滑に運営できた点や児童が成長した点を教職員でお互いに賞賛し、今後における改善点を具体的に検討する。</p> <p>(2) 教職員に必要と思われる研修や本人が希望する研修への参加を促し、研修中の学校体制を整えるようにする。研修後のレポートや周知についても本人と確認し、成果があるようにする。</p> <p>(3) 全教職員の毎日の様子を把握するため、コミュニケーションを図り、精神面のケアを図る。終業後の退勤を促す声掛けをすることはもちろん、会議や研修などの時間を保障するために、児童の教育活動に影響のない範囲で、短縮校時などを設定する。会議の効率化を図るため、ペーパーレス会議や、事前に資料を提出し、読んでおくことの徹底を図り、終業時間内に終わるようにする。</p> <p>(4) 学校支援地域本部の活動を維持するとともに、意見を取り入れながら改善していく。学校行事における地域連携を意識し、情報を発信しながら協力し合える関係を築いていく。</p> <p>(5) 職員会議等の際に、毎回不祥事・ハラスメント予防についての研修機会を設け、事例についても情報提供する。</p>

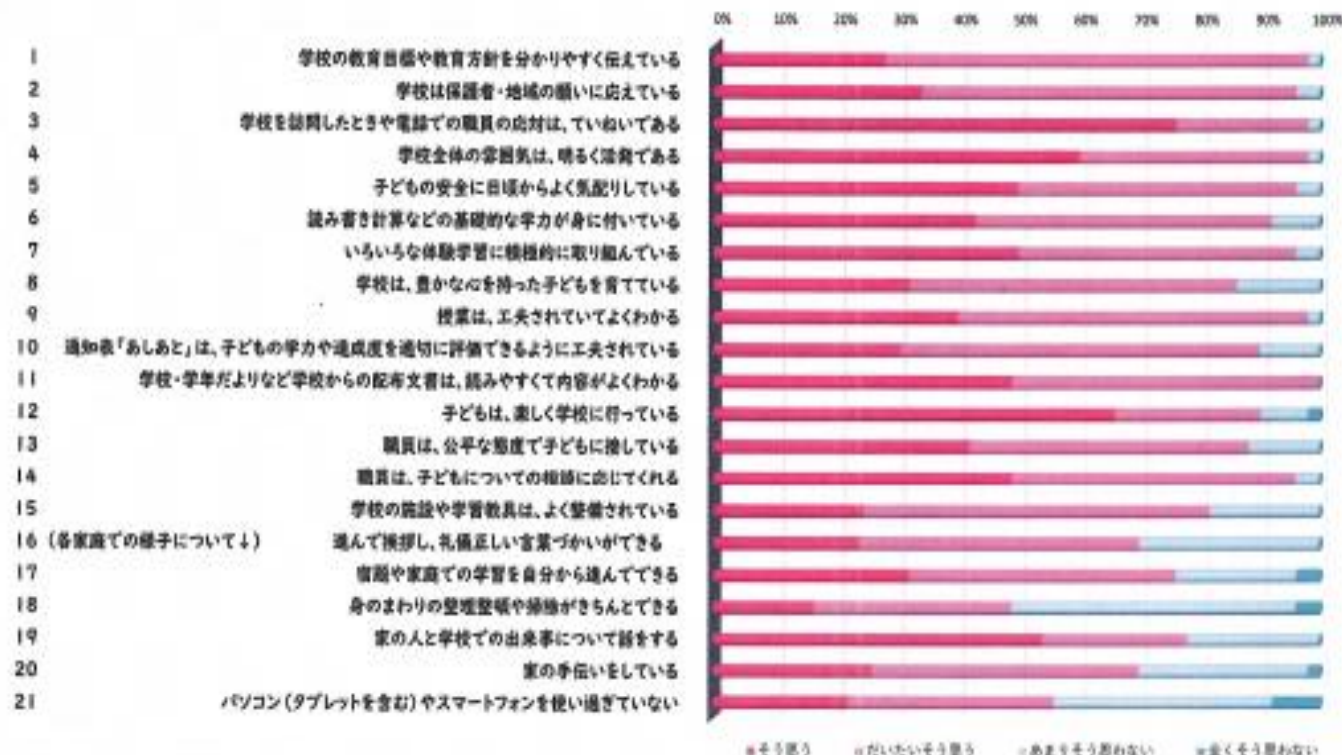
C	自己評価／成果と課題	<p>(1) 学校評価について、教務・研修部と生徒指導部、健康安全部の3部会において、PDCAにより、目標を立て、具体的に取り組むことができた。行事等について、その都度得た反省をまとめて共有し、円滑に運営できた点や児童が成長した点を教職員で互いに称賛し、今後における改善点を具体的に検討することができた。</p> <p>(2) 村内外の各研修に積極的に参加する教員が増え、研修後の報告をすることによって、全職員のスキルアップが図れた。またSE事業での研修を通して、教職員が同じベクトルに向かって考えることができた。担当者が「SE通信」にまとめることで、最後まで全職員で課題を共有し、共通意識をもって取り組むことができた。</p> <p>東小研での部長や副部長、研究授業などを引き受けるなど、学校全体としてより積極的な研修参加の姿勢がみられた。</p> <p>(3) 気軽に相談できる職員室の雰囲気を作り、悩みを一人で抱え込まず、どんなことでも仲間と共有し、一緒に取り組んでいけるように組織的に動けた。コミュニケーションを図り、教職員の様子を把握することはできたように思う。</p> <p>全職員が仕事の効率化を意識し、積極的に意見は出しつつ、会議の時間が縮小された。また、各教職員が意識することで、集中して業務に当たる時間も増えた。</p> <p>(4) 学校支援地域本部の打ち合わせを適宜実施し、迅速にサポート体制を組むことができた。コーディネーターが1名増えた。運動場の草抜きにおいても、声掛けを含めて中心となって動いていただき、運動会を良い状態で実施することができた。</p> <p>(5) 職員会議や職員朝礼等の機会に不祥事・ハラスメント防止研修を行い、事例についても情報提供した。特に問題となる事案はなく、全職員が高い意識を持って職務に当たることができていた。</p>
A	次年度に向けて	<p>(1) 行事ごとの反省をまとめて、共有や検討をするために、今よりもっと反省への回答率を上げたい。また、児童の成長した姿なども記入することで、共有していきたい。</p> <p>(2) SE事業を核としながら、他教科においても教職員の授業力をアップできるように、授業観察やミニ実技研修を実施したり、研修への参加を促したりする。</p> <p>(3) 今後も児童の様子の情報共有を綿密に行い、必要があれば組織的に動くことを意識する。</p> <p>(4) 学校支援地域本部の活動内容の維持・充実に向けて、発信の充実を図り、今後も地域の方々への協力をお願いしていく。</p> <p>(5) 職員会議の際に不祥事・ハラスメント防止に向けて、適宜研修を続けていく。</p>

4. 教育自己評価

【教職員による評価】

- ・出張や体調不良等でお休みの場合も、いつも教務部が代行体制を組んでくれるのでありがたい。学校によっては、各自で代行を依頼しないといけないところもある。専科や支援の先生方が快く代行に入って下さるので、今の代行体制が組めているのが本当にありがたい。
- ・ワーキンググループの結成は、必要な内容について複数名で検討したり提案したりすることができたので意義があったと思う。
 - チーム学校として組織的に動くことで、精神的にも安定して仕事ができる。
- ・どの学年もICT(タブレットPC等)を活用する機会が増え、一つの道具として使える児童も増えてきている。今年度の効果的だった活用例(教科・単元等)を年度末に共有して、来年度以降の参考にできるとありがたい。
 - ICTの効果的な活用が進んでいる。
- ・短縮校時を多く設定してもらったため、放課後余裕ができました。働き方改革につながった。
- ・短縮校時や学期初めの4時間授業で、ゆとりができてよかった。
 - 働き方改革を具体的に進めることができたので、心に余裕が生まれ、メンタルヘルスケアに繋がった。
- ・たくさんのボランティアさんが協力してくださり、本当にありがたい。
 - 児童の学習の保障だけでなく、教職員の安心につながっている。

【学校教育自己診断】



◎ 肯定的評価が高い項目

(1) 学校・学年など学校からの配布文書は、読みやすく内容がよくわかる (100%)

学校よりでは、子どもたちの各行事でのがんばりをお伝えしたり、月ごとの行事予定や下校時刻等を掲載しています。学年よりでは、各クラスでの子どもたちのがんばり等もお伝えしています。今後も学校の様子や子どもたちの様子がよくわかる文書のようにしていきます。

(9) 授業は、工夫されていてよくわかる (98%)

全職員、日ごろから授業研究を積み重ねていますので、肯定的評価が非常に高いことばうれしいです。今後も自分で考える時間や支だちと話し合う時間も大切にしながら「みんながわかる」授業を目指して努力していきます。

(1) 学校の教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている (98%)

本校は「だれもが輝きひびき合う学校」をめざして、教育目標に「豊かな心」「確かな学力」「健康な身体」の育成を掲げて、日々取り組んでいます。今年度も「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点に基づいた学校作りを進めています。今後も個性を認め、尊重し合い、協力し、だれもが安心して学べる「授業」「学校環境」を作れるように努めていきます。

(4) 学校全体の雰囲気は、明るく活発である (98%)

本校は「やさしさ笑顔いっぱい学校」を掲げていますので、今年度も高い評価をいただき大変うれしいです。今後も教職員、子どもたちともに「やさしさ」「笑顔」を大切に、保護者の皆様、地域の皆様とともに明るく前向きな学校づくりをすすめていきたいと思ひます。

(3) 学校を訪れたときや電話での職員への対応は、ていねいである (98%)

保護者の方々や地域ボランティアの方々など、学校には日々多くの方が来校されます。こちらから進んであいさつをすることを心がけ、電話の際にも丁寧な言葉遣いを意識していますのでこの評価もありがたいです。今後も「訪れやすい」「相談しやすい」=「聞かれた学校づくり」を目指していきます。

● 他と比べて肯定的評価がやや低い項目

(15) 学校の施設や学習用具は、よく整備されている (82%)

本校では子どもたちが安全に学校で過ごせるように、毎月、全職員で学校全体の安全点検を実施し、村教育委員会にも依頼しながら、村の予算の中で整備・修繕を行っています。学習用具につきましても、各教科で必要なものを検討し、なわとび台を作成したり、理科の実験用具を新調したりして整備をすすめています。今後も予算は限られていますが、ICT機器も含めて子どもたちのよりよい教育のために整備していきたいと思ひます。

(8) 学校は、豊かな心を持った子どもを育てている (86%)

本校は、学校教育目標に「めざす子ども像」として、「人の気持ちがわかる子」「すすんで学ぶ子」「元気でたくましい子」を掲げています。道徳の時間だけでなく、学校生活のあらゆる場面で豊かな心を育てられるようにしています。また、社会見学を行ったり、外部講師や地域ボランティアの方々を招いての授業も行ったたりして、子どもたちの視野を広げられるようにしていますので、今後も日々、子どもたちの豊かな心を育てられるように努力していきます。

☆ ご家庭での様子についての項目

(18) 身のまわりの整理整頓や掃除がきちんとできる (49%)

学校では、自分たちが気持ちよく過ごせるように、毎日分担して掃除をしています。また、持ち物等は各自のロッカーにしまったり、おんど等はクラスで場所を決めて片づけたりしています。ご家庭でも時々一緒に掃除をしたり、片づける場所を一緒に決めたりすることで「みんなが過ごしやすくなったね!」と声かけをして頂けたらと思ひます。

(21) パソコンやスマートフォンを使い過ぎない (56%)

昨年度も肯定的評価が低かった項目です。学校では、各学年で情報モラル教育を行ったり、外部講師の方をお招きしてSNS等の危険性等についても学んだりしています。パソコンやスマートフォンを夜遅くまで使っていると、疲労不足になり授業に集中できなかったり、学習意欲があまりに低かったりします。使い方や時間について、改めてお子さんと具体的に話し合っただけ、ルールを決めるなど検討していただけたらと思ひます。

☆ 学校への提言 ○ 学校からの回答 (記名のあった提言のみ回答しております)

☆ 学校行事について いつもお通達がお世話になっています。1月にまつかみ大会があると聞いて、事前に家庭にあった小豆を使って、娘と一緒練習をしました。小豆が小さく滑りやすかった為、なかなか個々のあまり練習にはなりませんでしたが、着の持ち方の再確認や親子でコミュニケーションを取るいい機会となりました。ありがとうございます。学校で友だちと一緒に学ぶ機会は、子ども達にとってとても大切な事だと思います。大人になってからも小学校で学んだ事や経験した事は、しっかりと心に覚えていきます。ぜひ、これからも子ども達に勉強だけでなく、いろいろな活動を楽しめる機会を提供して頂けると幸いです。

○ 活動の意義を評価していただき、ありがとうございます。学校での教育活動は、教科などの学習だけでなく、異年齢集団での遊びや清掃活動の中で学ぶこと、協力づくり、食育、健康教育、情報教育などいろいろな場面で行われます。今後も子どもたちが楽しみなが、興味を持って学べる場を提供できるように取り組んでまいりたいと思ひます。

☆ 通知表「あしあと」について

3学期の通知表を現在使われている用紙から、以前のような厚みのある用紙で作成してもらうことは可能でしょうか。大切に預りたいものなので、どうかご検討よろしくお願ひします。

○ ご意見、ありがとうございます。学期ごとの通知表を、もう少し厚い紙で作成できるように検討しております。

☆ 本の読み聞かせボランティアがありますが、ぜひ英語絵本もやってほしいです。地域にネイティブの方も住んでいるので、そんな機会があれば素敵だなと思ひます。

○ ご提案、ありがとうございます。子どもたちは英語の絵本を読んでもらうことは大好きです。学校にも絵本がありますので、ボランティアの登録をしていただければ、機会を設けることは可能です。ぜひ、よろしくお願ひします。

5. 学校関係者評価

学校評価の内容を踏まえて、学校関係者から意見をもらい記録する。

学校評議員会議より

- ・「行事のお知らせを地域の方や高齢の方にも知らせてはどうか」「村の方全体が村の小学生が何をしているかわかるようになればいいと思う」「地域の方がもっと小学校を身近に感じられるようになればいいと思う」
→ホームページなどを見ない高齢者や学校から遠い地区の方々にも、学校の様子が伝わるような方法を考えたいと思う。数年前は学校だよりを校区に全戸配布していたが、印刷費用と地区ごとに分ける人手、時間がかかったが、見ていただいた割合は低く効果がなかったことがあるので、他の方法を考えなければならない。
- ・自分の子どもは「入学式の時に、あの時に手をつないでくれたおねえちゃん・おにいちゃんだ」と覚えているので、2月の学校説明会の際の5年生との交流はよいものだと思う。
- ・ICTタブレットが簡単に触れる時代だが、子どもたちはICTの危険性を学んでほしい。良い使い方もあれば、こわい思いをすることもある。子どもたちがハッとするような（危険性が分かる）情報教育の授業をして欲しい。
→今後も時代の変化（低年齢化や悪質化）に合わせた内容の授業を行っていく。
- ・高校に入ったら、一度は「村」とあだ名をつけられる。村出身であることを言わないようにしている子どももいる。
→「村の子」であることに誇りを持てるように、郷土学をすすめている。「村のよさ」を言えるように、また、からかい等をはねかえせるような自信を持てるように、郷土学の実施を進めていきたい。

6. 第三者評価

実施なし